

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成30年度農作物病害虫発生予察情報について

平成30年度農作物病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成30年度農作物病害虫発生予察特殊報第1号

平成30年4月11日
徳島県

1 病害虫名
トマト黄化病

2 病原ウイルス
トマト退緑ウイルス *Tomato chlorosis virus (ToCV)*

3 発生作物
トマト

4 発生地域
名西郡石井町

5 発生概況

平成30年3月、徳島県名西郡石井町の施設栽培トマトにおいて、下位葉より黄化症状を呈する株が確認された(図1, 2, 3)。

徳島県立農林水産総合技術支援センター資源環境研究課で遺伝子診断(RT-PCR法)により黄化した葉を検定したところ、*Tomato chlorosis virus* が検出された。症状も既報と一致していたことより、本県では未発生の *Tomato chlorosis virus* によるトマト黄化病と判定した。

本病の発生は、平成20年に栃木県で初めて発生が確認され、これまでに関東、東海、九州を中心に16都県で発生が確認されている。

6 本病の症状等

- (1) 発病の初期には、葉の一部の葉脈間が退緑・黄化し、斑状の黄化葉となる。
- (2) 症状が進展すると葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、葉巻症状やえそ症状が現れる。
- (3) 黄化症状は中から下位葉に現れやすい。
- (4) 本病の症状は、生理障害の苦土欠乏症に似ており判別が難しい。
- (5) 発病株では生育が抑制され、収量が減少する傾向が見られる。
- (6) 本病はミニトマトでも発生することが知られている。

7 病原ウイルスの性質および伝染

- (1) 本ウイルスは、クリノウイルス属に属し、タバココナジラミ(バイオタイプBおよびQ)及びオンシツコナジラミが媒介する。
- (2) 本ウイルスを吸汁したコナジラミは、数時間から数日間ウイルス媒介能(半永続伝播)を有する。
- (3) 本ウイルスが属するクリノウイルス属ウイルスは、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしないことが知られている。
- (4) 本ウイルスは、ナス科、キク科、シソ科、アカザ科、リンドウ科、ゴマノハグサ科、ナデシコ科、フウロソウ科で感染が確認されている。



図1 施設内での発病状況



図2 葉脈間の黄化症状

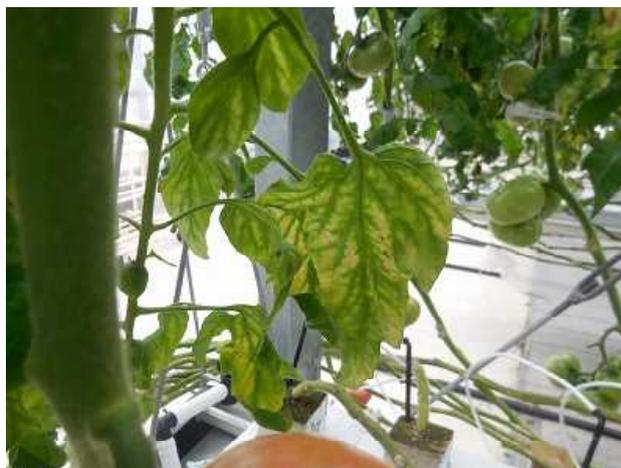


図3 症状が進展した葉(黄化, えそ症状)

8 対策

- (1) 本病はタバココナジラミ及びオンシツコナジラミにより媒介されるため、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病の対策と基本的には同様である。
- (2) 育苗期にコナジラミ類の防除を徹底し、本圃に持ち込まない。また、購入苗の場合は、コナジラミ類の寄生やウイルス症状がないことを確認してから定植する。
- (3) 施設の開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を展張し、コナジラミ類の侵入を防ぐ。
- (4) 黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の早期発見と施設内への侵入防止に努める。

- (5) 施設内および施設周辺の雑草は、コナジラミ類の発生源となるので、防草シートを設置するなど、除草を徹底する。
- (6) 媒介虫であるコナジラミ類を対象に、育苗期または定植時のネオニコチノイド系粒剤の施用や生育期間中の定期的な薬剤散布を行う(表1, 2)。特に、定植直後の感染は大きな被害に繋がるので、この時期の対策を重視する。なお、コナジラミ類の薬剤感受性の低下防止のため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- 注) 農薬を使用する際は、マルハナバチ等有用昆虫への影響を確認すること。
- (7) 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、ビニル袋等に入れ、完全に枯れるまで密閉処理してから処分する。また、摘葉や摘芯した作物残渣は、野外に放置せず、同様に処分する。
- (8) 栽培終了時には、抜根または地際から切断した上で、施設を密閉処理して、作物を枯死させるとともにコナジラミ類を死滅させる。

表1 トマト及び野菜類登録でコナジラミ類に効果のある主な薬剤

農薬通称	希釈倍数使用量	散布液量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	RAC1	RAC2
アクタラ粒剤5	1g/株		定植時	植穴処理	1回	4A	
アベイル粒剤	2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	4A	28
アルバリン粒剤	1～2g/株		育苗期	株元散布	1回	4A	
アルバリン粒剤	1～2g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	4A	
スタークル粒剤	1～2g/株		育苗期	株元散布	1回	4A	
スタークル粒剤	1～2g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	4A	
ダントツ粒剤	1～2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	4A	
ベストガード粒剤	5g/培土L		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混和	1回	4A	
ベストガード粒剤	1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	4A	
ベストガード粒剤	1～2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	4A	
アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	4A	
アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	4A	
アルバリン顆粒水溶剤	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	4A	
スタークル顆粒水溶剤	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	4A	
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	4A	
ベストガード水溶剤	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	4A	
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	4A	
アニキ乳剤	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	6	
アフーム乳剤	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	6	
コロマイト乳剤	1500倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	6	
コルト顆粒水和剤	4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	9(B)	
チェス顆粒水和剤	5000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	9(B)	
ノーモルト乳剤	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	15	
クリアザールフロアブル	2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	23	
モベントフロアブル	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	23	
エコピタ液剤	100～200倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	-	未	
オレート液剤	100～300倍	100～300L/10a	発生初期～収穫前日まで	散布	-	未	
サンクリスタル乳剤	300倍	150～500L/10a	収穫前日まで	散布	-	未	
粘着くん液剤	100倍	150～300L/10a	収穫前日まで	散布	-	未	
ゴツツA	500～1000倍	100～300L/10a	発生初期	散布	-	未	
ボタニガードES	500～2000倍	100～300L/10a	発生初期	散布	-	未	

(登録内容：2018年4月9日現在)

表2 ミニトマト及び野菜類登録でコナジラミ類に効果のある主な薬剤

農薬通称	希釈倍数使用量	散布液量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	RAC1
スタークル粒剤	1~2g/株		育苗期	株元散布	1回	4A
スタークル粒剤	1~2g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	4A
ダントツ粒剤	1~2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	4A
ベストガード粒剤	1~2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	4A
モベントフロアブル	1000倍	25~50mL/株	育苗期後半	灌注	1回	23
アドマイヤー顆粒水和剤	5000~10000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	4A
アルバリン顆粒水溶剤	2000~3000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	4A
スタークル顆粒水溶剤	2000~3000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	4A
ダントツ水溶剤	2000~4000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	4A
ベストガード水溶剤	1000~2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	4A
ディアナSC	2500倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	5
アニキ乳剤	1000~2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	6
アフーム乳剤	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	6
コロマイト乳剤	1500倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	6
コルト顆粒水和剤	4000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	9(B)
チェス顆粒水和剤	5000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	9(B)
ウララDF	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	29
カスケード乳剤	4000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	15
ノーモルト乳剤	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	15
クリアザールフロアブル	2000~4000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	23
モベントフロアブル	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	23
エコピタ液剤	100~200倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	-	未
オレート液剤	100~300倍	100~300L/10a	発生初期~収穫前日まで	散布	-	未
サンクリスタル乳剤	300倍	150~500L/10a	収穫前日まで	散布	-	未
粘着くん液剤	100倍	150~300L/10a	収穫前日まで	散布	-	未
ゴツツA	500~1000倍	100~300L/10a	発生初期	散布	-	未
ボタニガードES	500~2000倍	100~300L/10a	発生初期	散布	-	未

(登録内容：2018年4月9日現在)